

地域との共生

社会に提供する価値

- ・鉄道の強みを活かし、地域と一体となった観光振興
- ・行きたい、住みたい、ご利用しやすい沿線づくり
- ・地域と連携し、エリアに即した事業展開による地域の活性化



推進責任者のコメント

常務執行役員 総合企画本部長 二階堂 暢俊

基本的な考え方

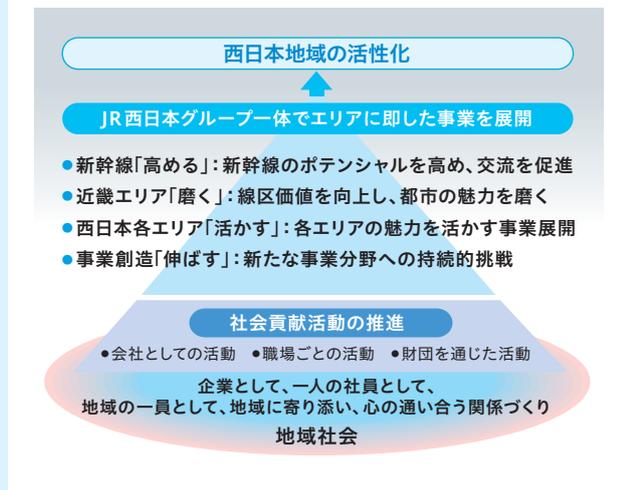
鉄道を核に事業を営むJR西日本グループは、地域を離れては存在し得ません。そこで、現在推進中の「JR西日本グループ中期経営計画2017」において、グループの「めざす未来～ありたい姿～」として、「地域共生企業」となることを掲げています。

そのためには、地域の皆様との対話を重ね、地域としてめざす姿や解決すべき課題を共有したうえで、ともに解決を図り、地域を活性化していくことが何よりも大切だと考えています。そして、このような関係をより確かなものとするために、自治体や地元企業と包括的に連携・協働することをめざす協定を締結したケースがいくつか具体化してきました。そういったなかで、JR西日本グループとして何ができるのかをしっかりと検討し、鉄道事業を核にエリアに即した事業を展開することにより、鉄道の品質を高めるとともに、鉄道以外の事業の拡大と新たな事業創造を推進していきます。

また、社会貢献活動の分野でも、地域との連携は欠かせません。鉄道をはじめとする事業活動とつながりの深い「安全」「地球環境」「社会福祉」「鉄道文化」、そして「地域社会」という5つの分野を中心とし、活動を推進します。

地域に根ざした取り組みを確実に積み重ね、西日本地域の活性化に貢献できるよう努めていきます。

■地域との共生 全体像



2012年度の総括

事業活動を通じた地域活性化策として、ホーム上の混雑解消のための駅設備の改良や、駅に隣接するショッピングセンターの開業など、駅の機能向上に取り組んだほか、保育施設の開設や子育てファミリー情報誌「とことことん」の発行などを実施しました。加えて、観光キャンペーン開催期間を中心に、地域やグループ会社と連携した「おもてなし」施策の実施、観光を意識した臨時列車の運行や2次アクセスの整備などを進めました。また、関係自治体との検討の場を設定し、地域交通のあり方についての議論を継続しています。

社会貢献活動の分野では、相次ぐ自然災害の中、会社としてボランティア活動を支援する制度を継続し、多数の社員がボランティア活動に参加しました。また、JR西日本あんしん社会財団との連携のもと、社員も参加する救急救命の啓発活動のほか、事故や災害が起こった際の備えやその後のケアなどに関わる地域に根ざした活動への助成や、新たな未来を創る研究に対する助成を継続しており、「安全で安心できる社会づくり」への貢献に努めています。

今後の方針

近畿エリアにおいては、引き続き、自治体との連携を深めながら、駅ナカ、駅ビル、駅周辺施設をより充実させることで、各線区の線区価値を向上させ、住みたくなくご利用しやすい沿線づくりに努めていきます。

西日本各エリアにおいても、引き続き、自治体との連携を深め、広島駅の開発や広島都市圏のシティネットワークの充実をはじめ、駅を中心とした街づくりへのグループ一体となった貢献とにぎわいの創出に努めます。また、各種観光キャンペーンの開催など、鉄道の強みを活かし、地域と一体となった観光振興を推進し、それぞれのエリアの持つ魅力を活かす事業をきめ細かく展開していきます。

社会貢献活動については、JR西日本あんしん社会財団を通じて、今後も引き続き安全で安心できる社会づくりに資するNPOなどへの助成を行うほか、消防などの協力を得ながら、救急救命の啓発活動を各地で開催します。加えて、各職場においても、車両所公開や「旅育」など、地域に根ざした活動を積極的に推進していきます。

P **〈近畿エリア〉**
快適で利便性の高い「生活圏」の創造

自治体をはじめとした関係者の皆様と連携・協働に関する方向性を共有し、具体的な取り組み内容や役割分担について議論を進めながら、一つひとつ施策を実施しています。

D **「子育て支援」の取り組みを推進**

滋賀県で認定こども園の整備に着手

包括的連携協定を結んでいる滋賀県において、駅に隣接する保育所整備を検討してきました。そして、地元の(福)大津子どもの家福祉会との協働で、琵琶湖線大津駅において、2014年4月の開園をめざし、保護者の就労有無に関わらず入園できる、認定こども園(認可申請予定)の整備を進めることになりました。

また、子育て世代の方々に便利な魅力ある線区となることをめざし、駅に隣接した保育所「JRキッズルーム」を運営しています。



認定こども園イメージ

子育てファミリー情報誌「とことことん」(季刊)を継続して発行

「とことことん」は、京阪神エリアのお出かけや子育ての情報を通じて、お子様と一緒にの毎日を応援する季刊誌です。

2012年度は、これを活用した地域イベントを西宮駅などで開催しました。



子育てファミリー情報誌「とことことん」

D **地域ニーズに応える「駅周辺の生活機能」を整備**

駅における商業施設の充実をはじめ、レンタサイクル「駅リンク」の整備や他公共交通との連携などによるアクセス改善、トイレやベンチの改良などを進め、駅機能の向上を図っています。

「ピオレ姫路」を開業

2013年4月、姫路駅関連プロジェクトの集大成として新駅ビルが無事竣工し、商業施設「ピオレ姫路(本館)」が開業しました。既存施設もリニューアルし、全体として約200店舗が入店するショッピングセンター「ピオレ姫路」として生まれ変わりました。

本館壁面の巨大パネルには約6万2千個のLEDによる間接照明を設け、夜は白鷺や水紋など光のアートを演出し、訪れるお客様に楽しんでいただいています。



ピオレ姫路

「ピエラ森ノ宮」を開業

大阪環状線森ノ宮駅に、駅を利用されるお客様および周辺にお住まいの方の生活基盤として、毎日のお買い物に利用できる商業施設「ピエラ森ノ宮」を2013年3月に開業しました。あわせて「ピエラ森ノ宮」をご利用いただく際にも便利な、南改札口を新設しました。



ピエラ森ノ宮

東海道線守山駅ホーム屋根を延長

東海道線守山駅において、雨天時の混雑解消のため、ホーム屋根を延長しました。これにより、京都方面は12両(従来6両)編成、米原方面は8両(従来5両)編成の列車でも雨に濡れずに乗降することが可能となりました。

C **個別の施策は予定通り進捗したものの、線区価値の向上には継続的な取り組みが必要**

商業施設開業や駅改良など、個別施策は着実に進捗しています。線区価値の向上には継続的な取り組みが必要なことから、各施策の内容を充実させ、それらが相乗効果を発揮できるよう、関係する自治体と連携して取り組んでいく必要があると考えています。

JRの資産や仕組みを活かして街づくりに貢献を

ホーム屋根の延長で、雨の日もホームの前後に分散してストレスなく乗り降りできるようになり、市民も喜んでます。守山市は、列車ダイヤに合わせた終バス延長の社会実験や、主なバス停への駐輪場の設置などにより、コンパクトな街づくりを推進しています。普段からJRと頻りに意見交換を行っていることが、こうした施策の実現につながりました。



守山市長
宮本 和宏 様

JRの利便性は市の人口増に大きく寄与しており、これを是非しっかりと維持、継続していただきたいと思えます。また、鉄道運行に限らず、駅リンクやICOCAなど、JRが持っているさまざまな資産や仕組みを活かし、街づくりに貢献してほしいと期待しています。加えて、JRの情報発信力に対する期待も非常に大きく、駅の自由通路や車内のテレビモニターを使って、運行情報や沿線の市町の情報を発信してもらえたら有難いと考えています。

A **お客様のニーズに応える生活関連サービスなどの展開により、線区価値を高めます**

駅橋上化や新駅設置、大学誘致など街づくりと一体となった駅整備や、駅ナカ、駅ビル、住宅、生活サポート施設など暮らしを豊かにするサービスの充実を図り、大阪環状線のブラッシュアップをはじめ、線区価値向上に自治体との連携を深めて取り組んでいきます。

P 〈西日本各エリア〉便利で暮らしやすく魅力あるまちづくりへの貢献

西日本各エリアにおいて、自治体や地域の皆様と協力し、駅や駅周辺での生活機能の充実や他公共交通機関への乗り継ぎの改善などに取り組んでいます。

D 可部線の電化延伸を決定

2003年に可部駅以北の非電化区間を廃止し、横川・可部駅間で営業してきた可部線では、2008年に当社も参加するJR可部線活性化協議会が設置され、地域活性化につながるさまざまな施策を策定・実施しています。その一環として、2013年2月、沿線の宅地開発が進み需要の増大が見込まれる可部駅から約1.6kmを電化延伸し、新駅2駅を設置することで広島市と合意しました。



D 地元企業との連携を推進

2011年に「公共交通の発展のための相互協力の覚書」を締結した両備グループの協力を得て、公共交通への理解を深めたいとイベント「鉄道の日フェア」を開催しました。また、2012年3月に「地域振興に関する業務協力協定書」を締結した(株)山陰合同銀行とともに、鳥取駅、米子駅、松江駅、浜田駅で共同挨拶運動を実施し、通勤中のお客様への挨拶を通じ地域とのコミュニケーションの充実を図りました。

C 連携協定に基づく取り組みが具体化

地元企業との対話を重ね、協定に基づく取り組みを具体化することができました。引き続き、地域活性化に向けて地元企業と連携していくとともに、すでに連携関係にある各社とのつながりを強化することが必要だと考えています。

A 駅を中心とした街づくりにグループ一体となって貢献し、賑わいを創出していきます

2013年8月、新たに(株)中国銀行と「地域振興に関する業務協力協定」を締結しました。今後も引き続き、自治体や地元企業との連携を進めるとともに、JR西日本グループ一体となって、駅を中心とした街づくりに貢献していきます。

P 〈西日本各エリア〉観光を契機とした地域活性化への貢献

D 地域と連携し、観光キャンペーンを推進

2012年秋、鳥取県・島根県とともに山陰DC*1を実施しました。山陰の魅力をより深く体験していただくイベントをはじめ、駅から目的地までの2次アクセス整備など幅広い分野で地域とともに取り組みました。また、海外のお客様を対象に「名探偵コナン岡山・倉敷ミステリーツアー」を開催し、地域と連携し、海外の旅行会社の視察受け入れや海外向けPRに取り組みしました。

私の次の一歩

2013年夏の広島DCで地元の自治体や企業の皆様とともに「おもてなし」に取り組みました

「宮島に次ぐ観光地として、島々が海に浮かぶ瀬戸内海の美しい風景を広く知っていただきたい」という地元共通の思いから、船で広島湾内の観光地を周遊するきっぷ「広島湾宝しまクルーズパス」を企画しました。また、山陰DC担当者の経験談を参考に、団体のお客様の広島駅到着の際に、地元の皆様とともに「おもてなし」を行い、喜んでいただきました。



広島支社 営業課
中本 理沙

C 地域振興のための連携はさらに進化します

島根県では、古事記編纂1,300年の昨年と出雲大社の大遷宮の今年にかけて「神々の国しまねプロジェクト」を展開し、多くの観光客に島根を楽しんでいただいています。この成功には、昨年秋の山陰DCをはじめとして、JR西日本の方々のさまざまな協働、支援がありました。



島根県副知事
小林 淳一 様

本年7月には、観光振興や地域交通活性化などの地域振興のための協働の覚書をJRの米子支社と締結し、若手による政策提案に向けた検討会などがスタートしています。また、私自身も支社の方々との意見交換の場を設け、県施策に活かしています。連携はさらに進化します。

A 自治体や地元企業との連携を深めていきます

山陰DCの成果を踏まえ、鳥取県、島根県と地域振興のための協働の継続を確認する協定を結びました。今後もこうした関係を大切にして地域活性化に貢献します。

北陸新幹線 長野・金沢駅間開業に向けて

2014年度末の開業に向け、北陸新幹線開業準備室を設置し、関係箇所と連携してさまざまな準備を行っています。

あわせて、開業効果を最大化するため、自治体や観光事業者などと連携した取り組みを進めています。学生が地域の方々と交流することで旅の素晴らしさを発見・情報発信する「北陸カレッジ」や、2015年秋に開催される北陸DCなどを通じて、継続的に北陸の魅力を発信していきます。

新駅の名称、列車名が決定しました

- 東京～金沢間直通列車
かがやき(速達タイプ)
はくたか(停車タイプ)
- 富山～金沢間運転列車
つるぎ(シャトルタイプ)
- 東京～長野間運転列車
あさま(現長野新幹線タイプ)



P 社会貢献活動のさらなる充実

D 「安心な社会」の構築をめざす取り組み

福知山線列車事故の反省に立ち、「安全で安心できる社会づくり」の一端を担いたいとの思いから設立した(公財)JR西日本あんしん社会財団が主体となり、事故や災害で被害に遭われた方の心身のケア、地域社会の安全性構築などに努めています。

「救急フェア」を開催

駅を利用される方々に、救急現場に居合わせた時の救命処置の重要性を啓発するため、「救急フェア～身につけよう救命処置～」を毎年開催しています。2012年度は、延べ約4,400名の方々にAEDの取り扱いや心肺蘇生法を体験していただきました。

NPOなどへの活動助成を実施

事故や災害への備えに関する活動・研究や、事故や災害が起こった後の心のケアや身体的ケアなどに関する活動・研究を対象に、広く一般から募集し、助成を行っています。2012年度は38件、3,423万円の助成を行いました。また、これらの公募助成のほか、あしなが育英会への寄付を行っています。当財団からの寄付金は、関西在住の高校奨学生らを対象とした「高校奨学生のつどい」や、小中学生対象の「キャンプのつどい」の運営費用の一部として、役立てていただいています。

詳しくはWEBで [JR西日本 あんしん社会財団](#) [検索](#)

D 地域との連携や協働で地域の活性化を促進

次世代育成のための取り組み

子どもたちの健全な育成を支援するため、駅や車両所の見学、列車の体験乗車などの課外学習プログラム「旅育」で、鉄道の利用方法や乗車マナーを、楽しく学んでいただいています。

また、子どもたちの健全な成長と地域スポーツの発展に貢献するため、毎年8月、西日本学童軟式野球大会を主催し、毎年3月、JR西日本少年剣道錬成大会を主催しています。

鉄道文化財の保護と活用

鉄道の歴史や遺産など「鉄道文化」を後世に継承するため、京都梅小路エリアに新たに鉄道博物館を開業することを公表しました。京都の新しい魅力をつくる鉄道文化拠点として、2016年春の開業に向けて準備を進めています。

地域の一員としての取り組み

地域に密着した駅づくりを目的に無人駅に鉄道OB会員を名誉駅長として配置し、お客様案内などをボランティアで行っています。また、地元祭やイベントに参加するとともに、駅スペースを活用し、地域の方々に楽しんでいただくジャズコンサートや地域の幼稚園児の絵画展示会などのイベントも開催しています。

詳しくはWEBで [JR西日本 社会貢献活動](#) [検索](#)

私の次の一歩

OBならではの立場でJR西日本と地域との共生を後押ししたいと思います

退職後、地域の一員として、通学時の子どもたちの見守りや駅周辺の清掃などを続けてきました。私は、地域の方に「自分たちの駅」として関心をもってもらうことが大切だと思います。東津山駅では警察と地域の団体の協力で、駅周辺の放置自転車を撤去することができました。地域の活動に参加しているOBも多いです。OBならではの立場で、地域との共生を後押ししたいと思います。



東津山駅 名誉駅長
高橋 誠(OB)

D 東日本大震災復興支援

東北コットンプロジェクトへの協賛

「津波の塩害を受けた農地で塩に強い綿花を栽培する」という岡山県児島の歴史から学んだ着想を、当社が発起人企業の1社タビオ(株)に紹介したことを契機に始まったプロジェクトです。協賛企業の1社として主要駅のポスターで活動を紹介しています。

詳しくはWEBで [JR西日本 東北コットンプロジェクト](#) [検索](#)

JR西日本あんしん社会財団による被災地・被災者支援を継続

東日本大震災・2011年台風12号災害に関するNPOなどによる支援活動に対して、寄付助成を継続して実施しています。

助成先の方の声

関西で避難生活を送られている方々に少しでもふるさとを感じていただくために

ふるさと福島を離れ関西で避難生活を送られている浜通り地方の方々に、小さくとも温かいコミュニティを築いていただけるよう、井戸端会議の場として交流会を開催しています。交流会で習いごと仲間同士や同じ高校のご出身の方が再会される場に立ち会うと、私も目頭が熱くなります。ときどき、どこの企業からの助成金で活動しているのか聞かれますが、JR西日本の財団であることをお伝えすると安心されます。被災された方の多くにとって、JRが一番身近な鉄道でした。関西の線路が東北のふるさとにつながっていることで、「ふるさとと共通のもの」として身近に感じておられるのだと思います。



(社)関西浜通り交流会
山内 正太郎 様

C 事業活動を活かした社会貢献活動を推進

鉄道をはじめ事業活動とつながりの深い取り組みを中心に、社会貢献活動を進めました。また、OBとの連携により、地域に根ざした活動の幅を広げることができました。

A JR西日本グループ内で連携して社会貢献活動に取り組んでいきます

地域と連携した取り組みを継続するとともに、一人ひとりが社会貢献活動に参加しやすいよう、JR西日本グループ内での協力を深め、さらに活動の幅を広げていきます。